

The background features a light blue grid pattern. Overlaid on this are several semi-transparent blue arrows pointing in various directions, some towards the right and some towards the top-right. Faint binary code (0s and 1s) is scattered throughout the background, along with some glowing white dots.

ソフトバンク 取り組みご紹介

ソフトバンク株式会社
2025.1.31

商用事例：位置情報を活用した人流統計データ

基地局から得られる位置情報を利用し 人の移動・滞在情報を統計加工してデータ提供するサービス

特長①

網羅性

日本全国
+
24時間365日



特長②

機能性

移動経路
+
交通手段



特長③

信頼性

高サンプル
+
統計データ補正



商業・不動産

- ・競合施設の商圈分析
- ・交通量に応じた駐車場設置計画
- ・新規出店エリアの検討



観光

- ・観光地の周遊促進
- ・観光地の渋滞対策
- ・地域交通網の整備



交通

- ・新交通サービスの導入検討
- ・道路の整備計画
- ・空港への二次交通改善



防災・減災

- ・災害時の避難ルート設計
- ・防災備蓄計画への反映
- ・帰宅困難者数の予測

データの取り扱い

① 基地局データ

- 生データ
- 通信の制御情報など
- ※通信の秘密に関する情報は除外

② 匿名加工データ

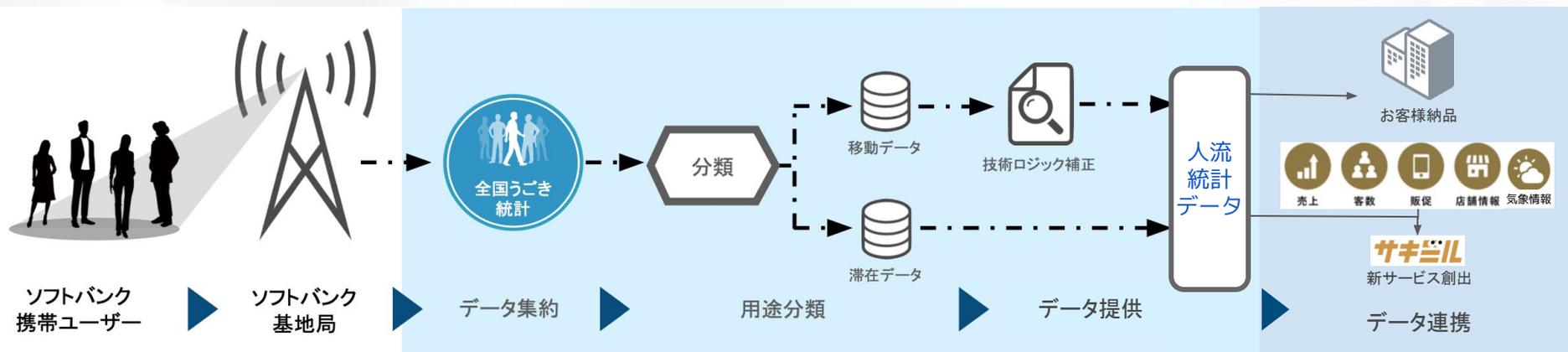
- 個人識別符号 (IMSIなど)は特定できない形に加工
- 個人を特定できないよう、メッシュ内が規定人数未満の場合はデータ削除
- 年齢情報は丸めて加工

③ 提供データ

- 技術ロジック補正 / 統計化

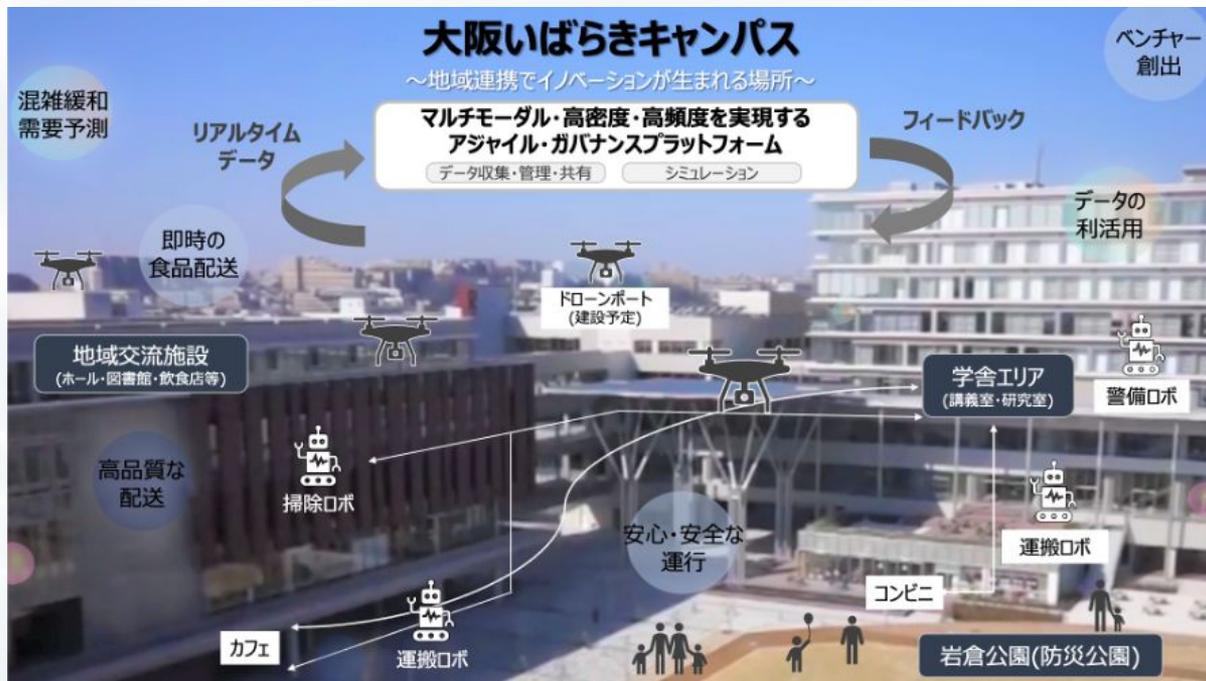
④ データ連携

- データリスク排除しデータ連携
 - 新サービス創出
- 例: AI需要予測で店舗支援「サキミル」

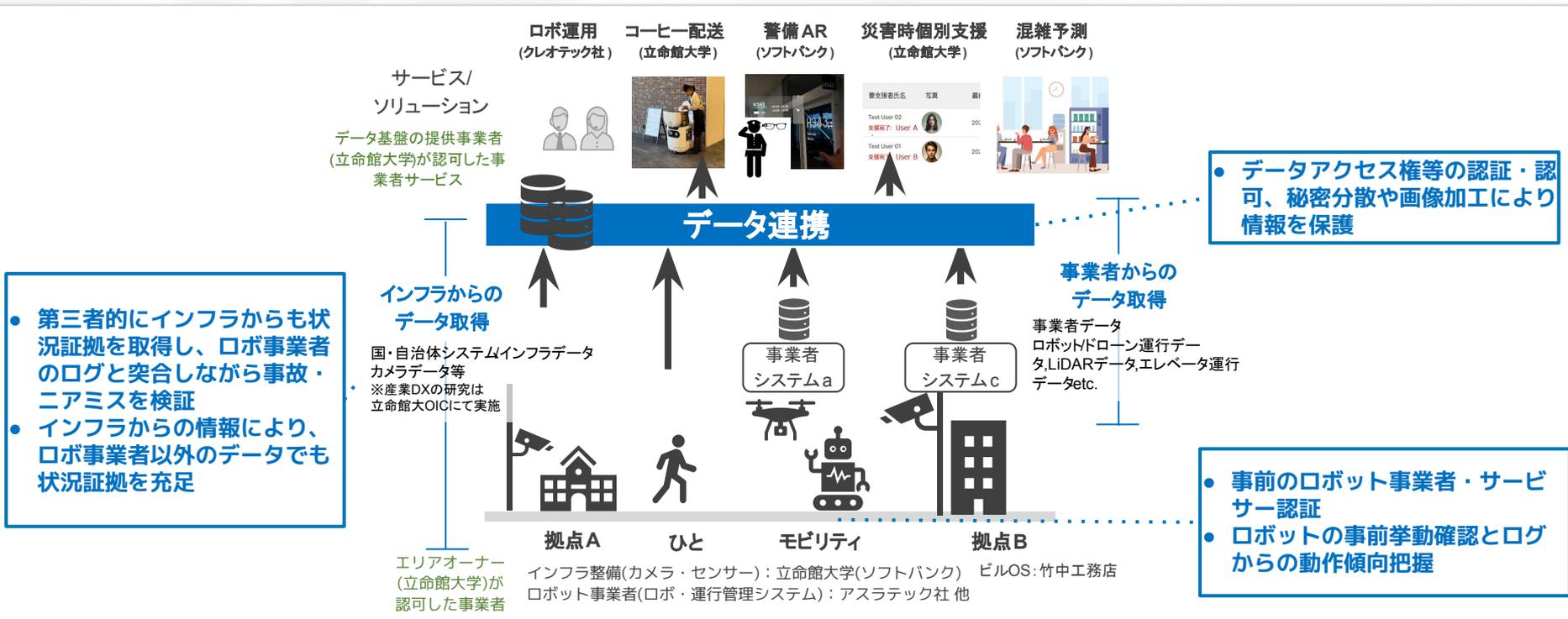


研究開発事例
産業DXのためのインフラ整備事業

学生・教職員・地域住民が往来するキャンパスを活用し 多くの事業者によるデータの取り扱いやその共有範囲・粒度に関する ガバナンスのあり方やルールについて検討



事業者からのデータ取得と中立的なインフラから情報を取得し サーバーに協調領域として公開、事業者サービスでエリアへ還元



今後について



自社主体のデータ提供

商用事例：人流統計データ

範囲

- └ 企業システム間のデータ連携

処理時間

- └ リードタイムが必要

データ対策

- └ 匿名化/統計加工
- └ 信頼性の高い他データとの掛け合わせによる統計補正



産官学データ連携

研究開発事例：産業DXのためのインフラ整備事業

範囲

- └ 産学をまたがるデータ連携

処理時間

- └ リアルタイム

データ対策

- └ 第三者インフラからの状況証拠とロボ事業者データとの突合
- └ ロボットの事前挙動確認とログからの動作傾向把握 etc.



デジタル社会基盤としてのデータ連携インフラ

範囲

- └ 産学官・地域/国をまたぐデータ連携

処理時間

- └ リアルタイム・低遅延化

データ対策

- └ データ提供元の認証・データ格付け (AIによる意図した/しない干渉含め)
- └ 利用者認証・認可、データ匿名化、トレーサビリティ等の対策
- └ データ提供時または活用された時のインセンティブ制度の構築

Appendix: トラスト整理観点の分析

商用事例：位置情報を活用した人流統計データ

Q.1 連携対象となるデータ

- ・携帯電話基地局から得られる自社人流データ
- ・気象庁,国勢調査,道路交通量などの外部データ

Q.3 データに関わるリスク・不確実性

- (1)個人が特定されるリスク
- (2)データ品質/信頼性

Q.2 データ連携の場

- ・秘匿処理/統計加工の上、特定システム間で連携
- ・個人情報保護、プライバシーポリシー/お客様同意に則った対応

Q.4 リスクに対する対応策

- (1)-1.個人識別符号など特定できない形に加工
- (1)-2.個人を特定できないよう、メッシュ内が規定人数未満の場合
はデータ削除
- (2)信頼性の高いデータとの掛け合わせにより統計加工の精度向上

研究開発事例：産業DXのためのインフラ整備事業

Q.1 連携対象となるデータ

- ・監視カメラ等（←国/自治体システム/インフラ）
- ・ロボット/ドローン運行データ, LiDARデータ, エレベータ運行データ等
（←ロボット事業者, ビルシステム事業者 etc.）

Q.3 データに関わるリスク・不確実性

- (1)データの真正性 - 事業者から正しいデータが提供されない/できない可能性
- (2)データの機密性
- (3)データ保持者がデータ自体を提供しない

Q.2 データ連携の場

- ・事業者および自治体・私有地・ビル等でのルール規約に基づき
マルチステークホルダーのデータをPF上で共有/連携

Q.4 リスクに対する対応策

- (1)-1.事前のロボット事業者・サービス認証
- (1)-2.ロボットの事前挙動確認とログからの動作傾向把握
- (1)-3.第三者的にインフラからも状況証拠を取得し、
ロボ事業者のログと突合しながら事故・ニアミスを検証
- (2)データアクセス権等の認証・認可、秘密分散や画像加工により情報を保護
- (3)インフラからの情報により、ロボ事業者以外のデータでも状況証拠を充足

EOF